

**OLYMPUS**

Your Vision, Our Future

# 2017年3月期 第2四半期 決算説明会

2016年11月2日  
オリンパス株式会社  
代表取締役社長執行役員  
笹 宏行

## 上期実績

- 為替影響を主要因とし前年同期比では減収減益となるも、営業利益、経常利益、当期純利益は前回(1Q時)見通しを達成

## 通期見通し

- 円高が進む英国ポンド、中国元の為替および、現状の事業環境を鑑み、売上、営業利益等の見通しを修正するも当期純利益は前回見通しを維持
- 主力の医療事業は現地通貨ベースで前回の営業利益見通しを据え置き

## 中期経営計画（16CSP）の進捗

- 戦略に基づく施策を着実に実行し、いくつかの成果が現れている

## 第2四半期実績

- ① 前年同期比 : 厳しい事業環境の中でも、為替影響調整後では前年並みの売上高を確保  
 ② 業績見通し比 : 営業利益以下の全利益項目で1Q時見通しを上回る実績

### 第2四半期累計 (4-9月)

(単位: 億円)	2016年3月期	2017年3月期 (1Q時見通し)	2017年3月期	増減額	前年同期比	見通し比	為替影響調整後 前年同期比
売上高	3,958	3,660	3,500	▲458	▲12%	▲4%	① ▲1%
営業利益 (営業利益率)	501 (12.7%)	290 (7.9%)	② 344 (9.8%)	▲157 (▲2.9pt)	▲31%	+18%	▲3%
経常利益 (経常利益率)	435 (11.0%)	250 (6.8%)	288 (8.2%)	▲147 (▲2.8pt)	▲34%	+15%	
当期純利益(※) (当期純利益率)	358 (9.0%)	200 (5.5%)	222 (6.3%)	▲136 (▲2.7pt)	▲38%	+11%	
円/USD	122円	107円	105円	▲17円(円高)			
円/Euro	135円	119円	118円	▲17円(円高)			
影響額: 売上高	-	▲380億円	▲435億円				
影響額: 営業利益	-	▲150億円	▲143億円				

# 事業環境認識

- ① 医療ニーズの増大等、中長期の環境認識は不変
- ② 世界経済の見通しには依然として不透明感

## 1Qにおける環境認識

- 中国を始めとした新興国経済の成長率鈍化
- Brexitによる一段の円高
- 資源安の長期化
- 熊本地震

## ② 現時点における環境認識

- 中国を始めとした新興国経済の成長率鈍化
- 不安定な為替相場
- 資源価格は依然として歴史的に低水準

## ① 16CSP期間における環境認識

- 少子高齢化
- 医療ニーズの増大
- 医療費抑制圧力
- 症例数の増加と施設数の減少
- 科学分野の顧客ニーズの多様化
- デジタルカメラ市場の縮小

16CSP経営目標達成に向けた戦略を確実に遂行

# 通期見通し

## ① 為替および事業環境が厳しい中でも前回見通しの当期純利益は確保

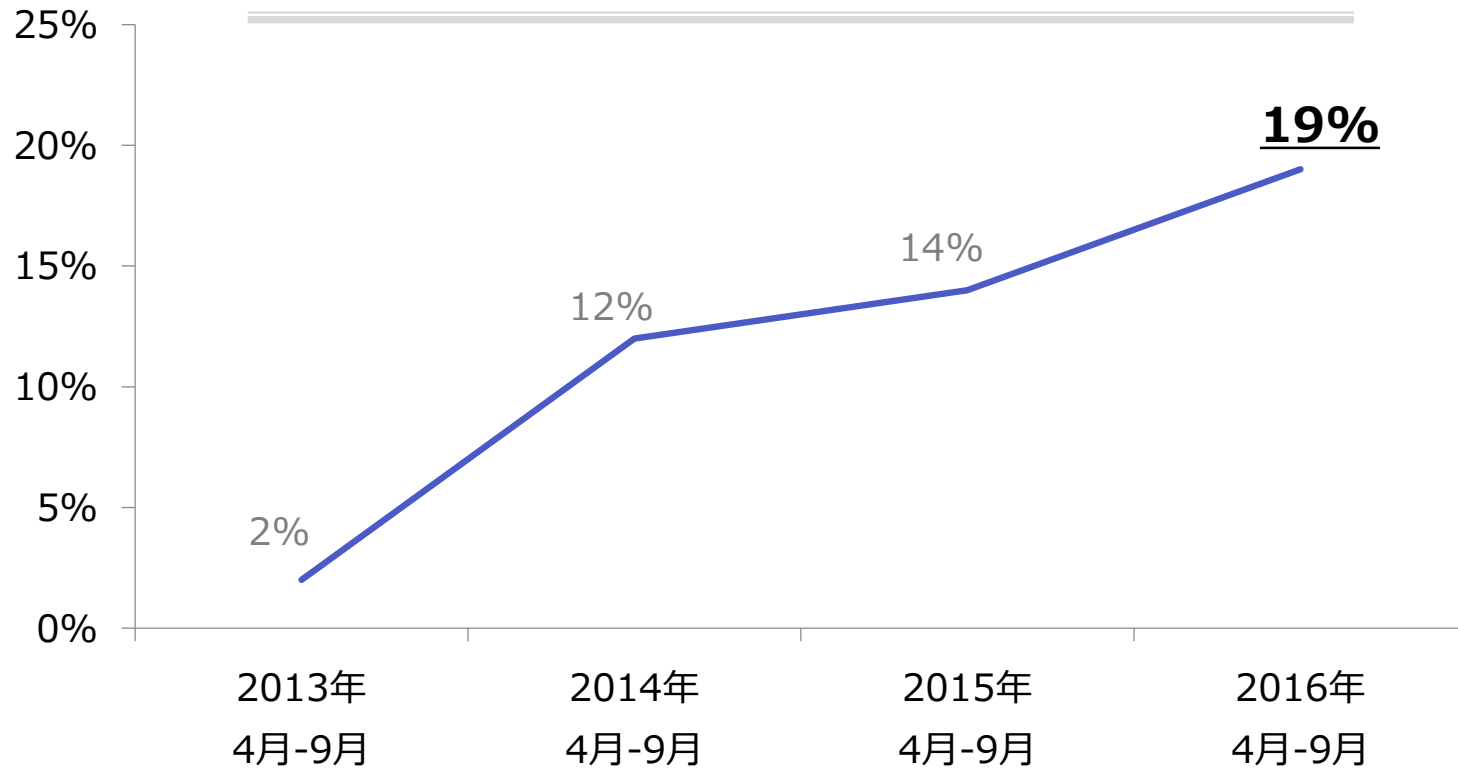
(単位：億円)	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (前回見通し)	2017年3月期 (最新見通し)	増減額	前年比	為替影響調整後
売上高	8,046	7,750	7,430	▲320	▲8%	+3%
営業利益 (営業利益率)	1,045 (13.0%)	770 (9.9%)	720 (9.7%)	▲50 (▲0.2pt)	▲31%	▲1%
経常利益 (経常利益率)	909 (11.3%)	670 (8.6%)	600 (8.1%)	▲70 (▲0.5pt)	▲34%	
当期純利益(※) (当期純利益率)	626 (7.8%)	570 (7.4%)	570 (7.7%)	— (+0.3pt)	▲9%	
EPS	183円	167円	167円	—	▲9%	
円/USドル	120円	106円	105円	▲1円(円高)	▲15円(円高)	
円/Euro	133円	117円	117円	▲0円(円高)	▲16円(円高)	

# 中期経営計画（16CSP）の進捗 ①

## 事業戦略：医療事業の成長「内視鏡分野・新興国でのビジネス拡大」

- アジア・オセアニア地域売上高が前年同期比2桁成長
- 東南アジア地域の成長加速を目指し、タイにトレーニングセンターを設立（7月）

【アジア・オセアニア 内視鏡分野】 現地通貨ベース成長率



Thai - Training and Education Center (T-TEC) の外観・内観写真



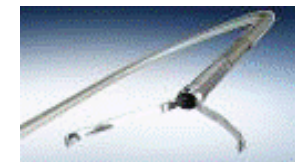
## 中期経営計画（16CSP）の進捗 ②

### 事業戦略：医療事業の成長「シングルユース・ビジネスの拡大」

- 販売体制強化および製品ラインナップ拡充により、シングルユース・ビジネスの売上高が持続的に成長
  - 外科エネルギー：  
戦略商品 サンダービートの売上高が着実に拡大
    - ✓ 北米 2017年3月期2Q 現地通貨ベースで前年同期比 2桁の成長
  - 処置具：  
最大市場の北米において、販売体制強化の効果が顕在化
    - ✓ 北米 2017年3月期2Q 現地通貨ベースで前年同期比 15%成長
    - ✓ 10四半期連続で前年同期比 2桁の成長



内視鏡用処置具





## 重点戦略：経営資源の集中

### ■ 拡大事業領域への経営資源のシフト

- NOC日本アウトソーシング株式会社をロングリーチグループへ譲渡（10月31日）
- 第3四半期決算において約38億円の特別利益を計上見込み

## 重点戦略：コーポレート・ガバナンスの強化

### ■ 取締役会の実効性向上に向けた取り組みを株式市場へ説明

- 昨年に続き、取締役会評価の結果を開示（6月28日）
- 独立社外取締役 兼 取締役会議長によるガバナンスに関する説明会を開催（9月28日）



**OLYMPUS**

---

**OLYMPUS**

Your Vision, Our Future

# 2017年3月期 第2四半期 連結決算概況

2016年11月2日

オリンパス株式会社

取締役副社長執行役員 CFO

竹内 康雄

---

# 2017年3月期 第2四半期 連結業績および事業概況

# 2017年3月期 第2四半期実績 ①連結業績概況

① 上期営業利益は、コスト管理の徹底等により、1Q時見通しを上回る着地

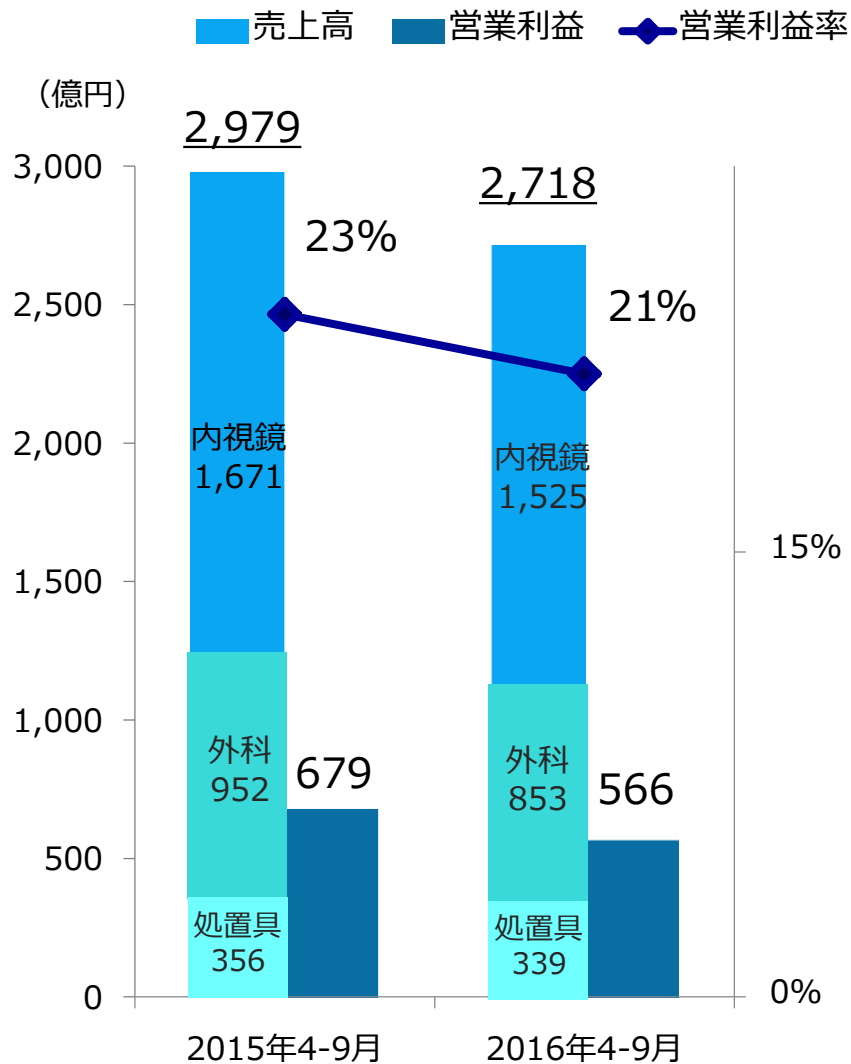
② 厳しい為替状況においても営業利益率は約10%

第2四半期累計（4-9月）

(単位：億円)	2016年3月期	2017年3月期 (1Q時見通し)	2017年3月期	見通し比		前年 同期比	為替影響調整後 前年同期比
				増減額	%		
売上高	3,958	3,660	3,500	▲160	▲4%	▲12%	▲1%
売上総利益 (売上総利益率)	2,628 (66.4%)	2,422 (66.2%)	2,328 (66.5%)	▲94	▲4%	▲11%	+1%
販管費 (販管費率)	2,127 (53.7%)	2,132 (58.3%)	1,984 (56.7%)	▲148	▲7%	▲7%	+2%
営業利益 (営業利益率)	501 (12.7%)	290 (7.9%)	344 (9.8%)	+54	+18%	▲31%	▲3%
経常利益 (経常利益率)	435 (11.0%)	250 (6.8%)	288 (8.2%)	+38	+15%	▲34%	
当期純利益(※) (当期純利益率)	358 (9.0%)	200 (5.5%)	222 (6.3%)	+22	+11%	▲38%	
円/USDドル	122円	107円	105円				
円/Euro	135円	119円	118円				
影響額：売上高	-	▲380億円	▲435億円				
影響額：営業利益	-	▲150億円	▲143億円				

# 2017年3月期 第2四半期実績 ③医療事業

実績数値

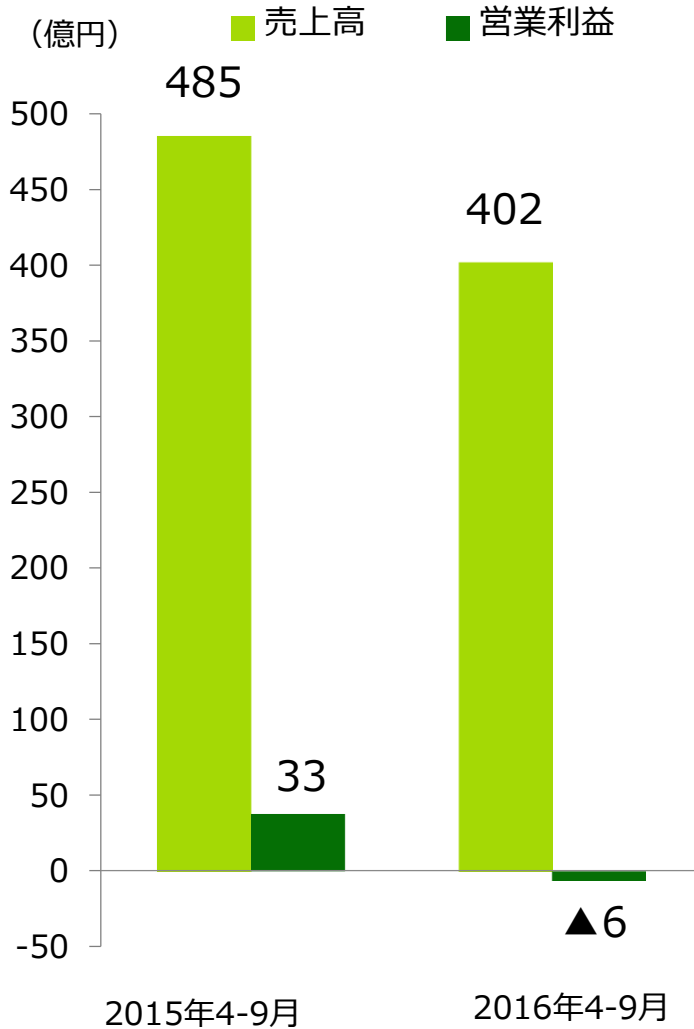


(単位：億円)	2Q				累計			
	2015年 7-9月	2016年 7-9月	円ベース	為替影響 調整後	2015年 4-9月	2016年 4-9月	円ベース	為替影響 調整後
売上高	1,585	1,418	▲11%	+3%	2,979	2,718	▲9%	+3%
内視鏡	897	804	▲10%	+3%	1,671	1,525	▲9%	+3%
外科	505	446	▲12%	+3%	952	853	▲10%	+2%
処置具	183	168	▲8%	+6%	356	339	▲5%	+8%
営業利益	428	342	▲20%	+3%	679	566	▲17%	+2%
営業利益率	27%	24%	-	-	23%	21%	-	-

- 円ベースで減収減益も、為替影響調整後では全分野で増収となり、増益
- 現地通貨ベースでの前年同期比の状況

- 内視鏡** アジア・オセアニアが高成長を維持しプラス成長
- 外科** 主力の外科内視鏡及びサンダービートなど、エネルギーデバイスの販売が堅調に推移
- 処置具** 販売体制強化及びラインアップ拡充により、日欧米で順調な伸び

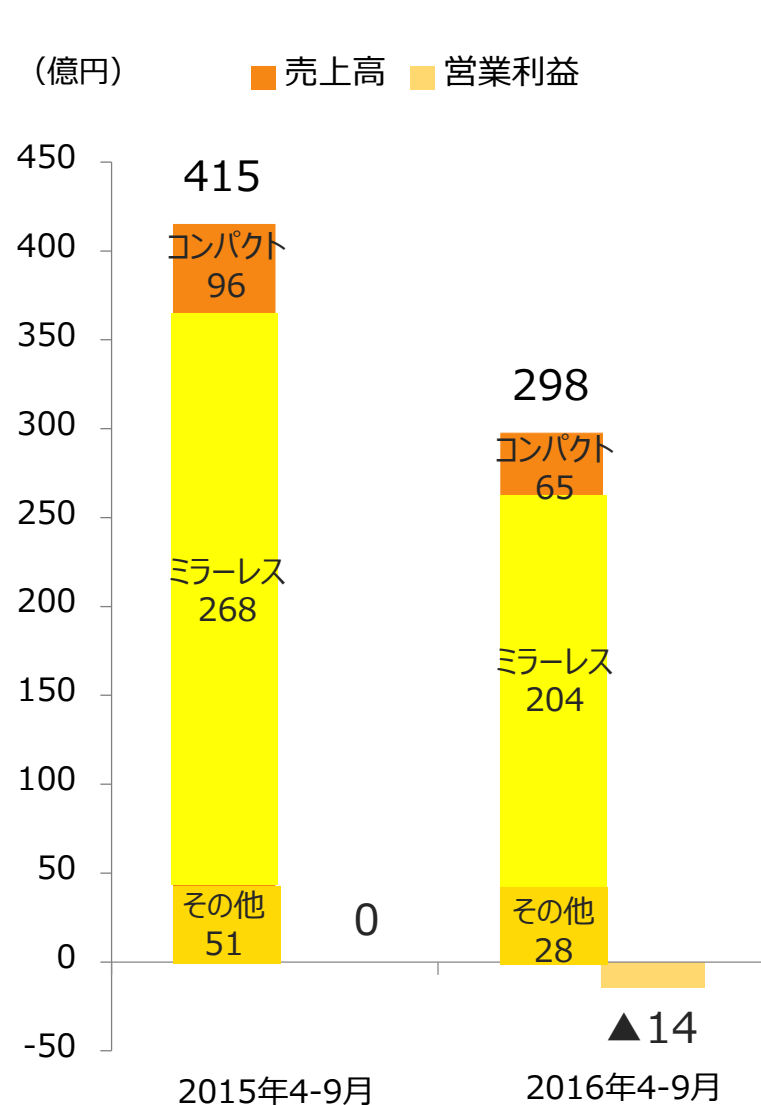
# 2017年3月期 第2四半期実績 ④科学事業



(単位：億円)	実績数値				実績数値			
	2Q		為替影響調整後		累計		為替影響調整後	
	2015年7-9月	2016年7-9月	円ベース		2015年4-9月	2016年4-9月	円ベース	
売上高	257	218	▲15%	▲3%	485	402	▲17%	▲6%
営業利益	26	7	▲71%	▲29%	33	▲6	-	▲80%
営業利益率	10%	3%	-	-	7%	-	-	-

- 為替影響に加え、厳しい事業環境や、一部製品における納品遅れ、新製品の発売遅れ等もあり、減収減益
  - 先進国を中心とした研究予算の抑制や資源安による資源関連投資の低迷、円高による国内製造業の投資抑制等

# 2017年3月期 第2四半期実績 ⑤映像事業



## 実績数値

(単位：億円)	2Q				累計			
	2015年 7-9月	2016年 7-9月	円ベース	為替影響 調整後	2015年 4-9月	2016年 4-9月	円ベース	為替影響 調整後
売上高	200	138	▲31%	▲22%	415	298	▲28%	▲20%
コンパクト	46	27	▲41%	▲3%	96	65	▲32%	▲26%
ミラーレス	128	96	▲25%	▲15%	268	204	▲24%	▲14%
その他	26	14	▲45%	▲40%	51	28	▲44%	▲39%
営業利益	▲11	▲12	-	-	0	▲14	-	-

- 市場規模の縮小および熊本地震の影響等により、前年同期比で30%近い減収
- 厳しい事業環境の中、主力のミラーレス既存製品が堅調に推移したことで、1Q時点の見通し並の売上げを確保



# 連結貸借対照表 (2016年9月末) ① バランスシート

- 純資産 : 円高を受けた為替換算調整勘定のマイナス影響により、3,552億円
- 有利子負債 : 234億円圧縮し、2,977億円
- 自己資本比率 : 為替影響により、純資産は減少しながらも、有利子負債を圧縮したことで39.2%

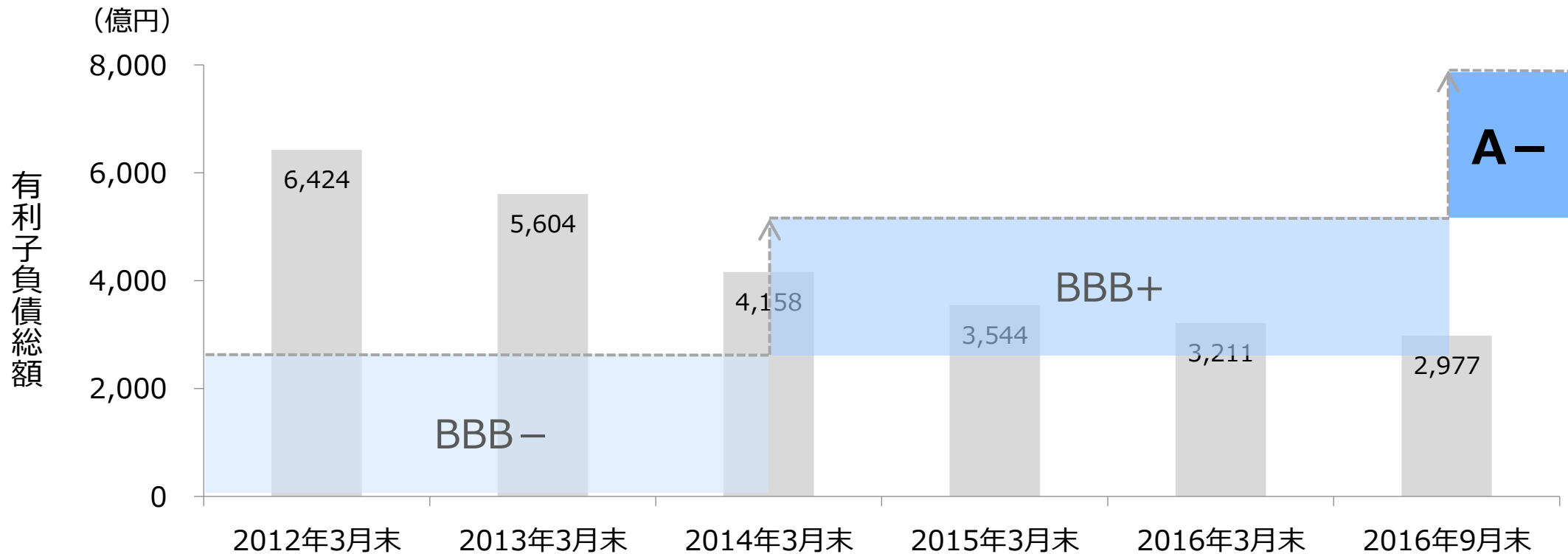
(単位：億円)	2016年 3月末	2016年 9月末	増減額		2016年 3月末	2016年 9月末	増減額
流動資産 (デジカメ在庫)	5,207 (144)	4,646 (122)	▲561 (▲22)	流動負債	2,666	2,508	▲158
有形固定資産	1,661	1,607	▲53	固定負債 (内：社債・長期借入金)	3,497 (2,645)	2,947 (2,222)	▲550 (▲423)
無形固定資産	1,508	1,271	▲237	純資産	3,843	3,552	▲291
投資その他資産	1,631	1,484	▲147	(自己資本比率)	(38.2%)	(39.2%)	(+1.0pt)
資産合計	10,006	9,008	▲998	負債 純資産 合計	10,006	9,008	▲998

有利子負債：2,977億円 (2016年3月末比▲234億円)

# 連結貸借対照表 (2016年9月末) ②トピックス

## ■ 格付け向上

- 株式会社格付投資情報センターが当社の発行体格付を「BBB+」→「A-」に引き上げ（10月7日）
- 継続的な有利子負債削減、自己資本の充実への取り組みにより、ここ数年で着実に進んだ財務改善を評価



# 連結キャッシュフロー計算書（2016年4月～2016年9月）

■ 事業の成長に向けた投資を着実に行いつつ、87億円のフリーキャッシュフローを確保

(単位：億円)		2016年3月期2Q	2017年3月期2Q	増減
売上高		3,958	<b>3,500</b>	▲458
営業利益		501	<b>344</b>	▲157
	(営業利益率：%)	12.7%	<b>9.8%</b>	▲2.9pt
	営業CF	549	<b>414</b>	▲135
	投資CF	▲275	<b>▲327</b>	▲53
	財務CF	▲431	<b>▲242</b>	+189
キャッシュフロー		▲157	<b>▲156</b>	▲1
フリーキャッシュフロー		274	<b>87</b>	▲187
現金及び現金同等物期末残高		1,949	<b>1,387</b>	▲562
減価償却費		194	<b>227</b>	+33
のれん償却額		50	<b>42</b>	▲8
設備投資額		318	<b>284</b>	▲34

---

# 2017年3月期 通期業績見通し

# 2017年3月期 通期業績見通し

- ① 通期においてもコスト管理を徹底し、営業利益率にして約10%の収益性を維持
- ② 当期純利益は、子会社株式譲渡により特別利益の計上や繰延税金資産の計上などによる税金費用の改善により、前回見通しの570億円を据え置き

(単位：億円)	2017年3月期 (1Q時見通し)	2017年3月期 (最新見通し)	増減額	1Q時見通し比	為替影響調整後 1Q時見通し比
売上高	7,750	7,430	▲320	▲4%	▲3%
売上総利益 (売上総利益率)	5,138 (66.3%)	4,960 (66.8%)	▲178 (+0.5pt)	▲3%	▲2%
営業利益 (営業利益率)	770 (9.9%)	720 (9.7%)	▲50 (▲0.2pt)	▲6%	▲1%
経常利益 (経常利益率)	670 (8.6%)	600 (8.1%)	▲70 (▲0.5pt)	▲10%	
当期純利益(※) (当期純利益率)	570 (7.4%)	570 (7.7%)	— (+0.3pt)	0%	
EPS	167円	167円	—		
円/USDドル	106円	105円	▲1円(円高)		
円/Euro	117円	117円	▲0円(円高)		
影響額：売上高	—	▲90億円			
影響額：営業利益	—	▲40億円			

**2017年3月期年間配当**  
期末配当28円を予定

# 2017年3月期 セグメント別業績見通し

- ① 医療事業 : 現地通貨ベースの営業利益を確保
- ② 科学事業 : 上期の実績や現在の事業環境を反映し、売上、営業利益とも修正
- ③ 映像事業 : ミラーレス普及モデルの価格維持による損益改善を織り込む

		(単位：億円)	2017年3月期 (1Q時見通し)	2017年3月期 (最新見通し)	増減額	1Q時見通し比	為替影響調整後 1Q時見通し比
医療	売上高		5,980	5,760	▲220	▲4%	▲2%
	営業利益		1,200	1,170	▲30	▲3%	0%
科学	売上高		960	890	▲70	▲7%	▲6%
	営業利益		40	10	▲30	▲75%	▲63%
映像	売上高		620	650	+30	+5%	+5%
	営業利益		▲40	▲30	+10	—	—
その他	売上高		190	130	▲60	▲32%	▲32%
	営業利益		▲60	▲60	—	—	—
全社・消去	売上高		—	—	—	—	—
	営業利益		▲370	▲370	—	—	—
合計	売上高		7,750	7,430	▲320	▲4%	▲3%
	営業利益		770	720	▲50	▲6%	▲1%

# OLYMPUS

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。